

大津町議会 文教厚生常任委員会行政調査報告

氏名 清原 さおり

視察研修名：大津町議会文教厚生常任委員会行政視察

研 修 先：①大阪府 泉大津市

②大阪府 泉南市

期 日：令和7年10月30日（木）～31日（金）

研修テーマ：①「市立図書館 シープラ」の取り組みについて

②「小規模特認校 市立東小学校」の取り組みについて

研修報告 意見・感想

1 10月30日（木）13時半～

泉大津市立図書館「SHEEPLA（シープラ）」の取り組みについて

以前、熊本市内で講演を拝聴した、熊本出身の河瀬館長自らが案内・ご説明くださり、写真でしか見ていなかった図書館を実際に見られたことは大きな学びとなった。平日の13時にも関わらず多くの来館者がおり、特に大学生らしき利用者が多いことに驚いた。学習スペースやワークスペースで勉強する姿が見られ、高齢者の利用も多かった。商業施設の4階フロア全体が図書館であり、他の階には店舗があるため、買い物のついでに立ち寄れる。また、隣接する泉大津駅から直結しており、雨の日でも濡れずに来館できる。

荷重の関係もあるとのことだが、書架が高くなく、館内全体を見渡しやすい点も良い設計だと感じた。死角が少ない。また、館内にショップがありコーヒーが販売されている点も良い取り組みである。

事前にお送りしていた質問にも丁寧に答えていただいた。その内容を含め以下に整理する。

●子どもの居場所としての現状と課題

最も関心があった点であるが、「〇〇してはいけない」と禁止するのではなく、「お互いに快適な空間づくり」を唯一のルールとして掲げていることが、来館しやすい雰囲気づくりにつながっているとのことだった。リニューアル後、子どもの来館数は着実に伸びている。飲食可能スペース、観葉植物の無料貸し出し、仮眠 OK タイム、ホワイトボード付き会議スペース、ミニコンサートも可能なスペースなど、多様な工夫がされている。「OKにする方法を、大人が考える」という館長の言葉に深く共感した。もちろん、必要な場面では注意するが、来館者の様子を見て感じるのは「みなさんが寛容になった」ということだそうである。当町における子どもの居場所づくりにおいて非常に示唆に富む事例である。

●読書習慣の促進について

カード登録は市外のみならず県外の利用者も可能とのことで驚いた。ビジネス支援も充実しており、会議や打ち合わせスペースとしての利用も可能であるため、登録対象を広げていることは理解できる。また、漢字が読めず本を読まない子に対しては「やさしい日本語」の本を配置しているとのこと。学校図書館の地域開放も進んでいる。行政支援・議会支援にも取り組んでおり、資料や論文のデータベースとしての活用促進も行われている。

<まとめ>

「公共資源は地域住民に還元するもの」という原点を改めて確認できた視察であった。公立図書館は、子どもを含むすべての住民が気軽に利用できるものでなければならぬ。過度な利用制限はその理念に反する。当町に取り入れられる好事例については、積極的に検討・提案していきたい。

2 10月30日（木）16時～

泉大津市「SHEEPATH PARK（シーパスパーク）」視察

「緑豊かなヘルシーパーク」として指定管理者により運営されている新たな形の都市公園を視察した。造成された山で草すべりができ、泥・水遊びコーナーでは子どもたちが思い切り遊ぶ姿が見られた。足洗い場が完備され、道具も豊富で、道具入れには子どもたちが描いたイラストが施されていた。ペットの散歩、ランニング、ウォーキングも可能である。さらに、隣接地には「泉大津円形スケートパーク」があり、若者がスケートボードの練習を楽しんでいた。飲食店舗、コンテナハウス、ワークショップスペース、多目的室もあり、一日過ごせるよう工夫されている。

これからの公園には、多機能性・体験性が求められ、官民連携で「行きたくなる公園」を設計することが重要だと感じた。

3 10月31日（金）10時～

「小規模特認校 泉南市立東小学校」の取り組みについて

当町にも小規模特認校制度があり、大規模校区に住む新小学1年生が大津東小学校を選択できる制度がある。今回、同じ小規模特認校である泉南市立東小学校の現状を知る良い機会となった。

令和7年度の全校児童78名のうち地元児童は15名、特認校制度利用児童は63名であり、多くの家庭が制度を活用している。小規模校の魅力が周知されていると感じた。市内全校区から制度利用可能、各学年20名定員、転入は年度はじめのみ、複式学級なし、中学校進学は在住校区へ戻る。遠距離通学はデメリットだが、コミュニティバス運行と運賃補助により負担軽減が図られている。

東小学校の特色として、以下が挙げられる。

- ・児童同士の「学び合い」が生まれやすい
- ・児童主体の英語活動、ICT 教育、コグトレ、朝学習
- ・異学年交流が活発で、高学年が低学年を支える好循環
- ・自然を活かした体験活動（農業・川遊び等）、全面芝生の運動場
- ・地域と連携した CS 体制によるサポートの充実

課題としては、中学進学時のコミュニティ変化への戸惑い、放課後学童の難しさ、地元児童がゼロとなった場合の学校存続などが挙げられていた。

少子化が進む中、小規模校には一人一人に丁寧に寄り添える強みがある。大規模校育ちの私自身にとっても、新たな視点を得られた。選ばれる学校づくりの要素を当町にも還元したい。

＜総括＞

大変充実した視察で、多くの学びがあった。シープラの河瀬館長、東小学校の河野校長、堀口議長、行政職員の皆さまから感じたのは、子どもたちに注がれる深い愛情と熱意である。地域全体で子どもを育てるという思いが強く伝わり、胸が熱くなった。地域特性や課題はそれぞれだが、教育への思いは共通する。文教厚生常任委員として、教育行政により真摯に向き合っていきたい。